

2.4 施設等の状況に関すること

平成 29 年度末現在の水源状況、浄水施設、一日最大給水量、最大稼働率、管路延長、管路の経年化率、管路の耐震化適合率、浄水場の耐震化率、配水池の耐震化率を示します。

さらに、令和元年 9 月末現在のアセットマネジメント実施状況、更新計画策定状況、耐震化計画策定状況についても示します。

また、一日最大給水量、最大稼働率については、令和 50 年度までの推計値についても示します。

2.4.1 水源(平成 29 年度現在)

道内の水源別取水量について、以下のとおり示します。

1) 水源別取水量

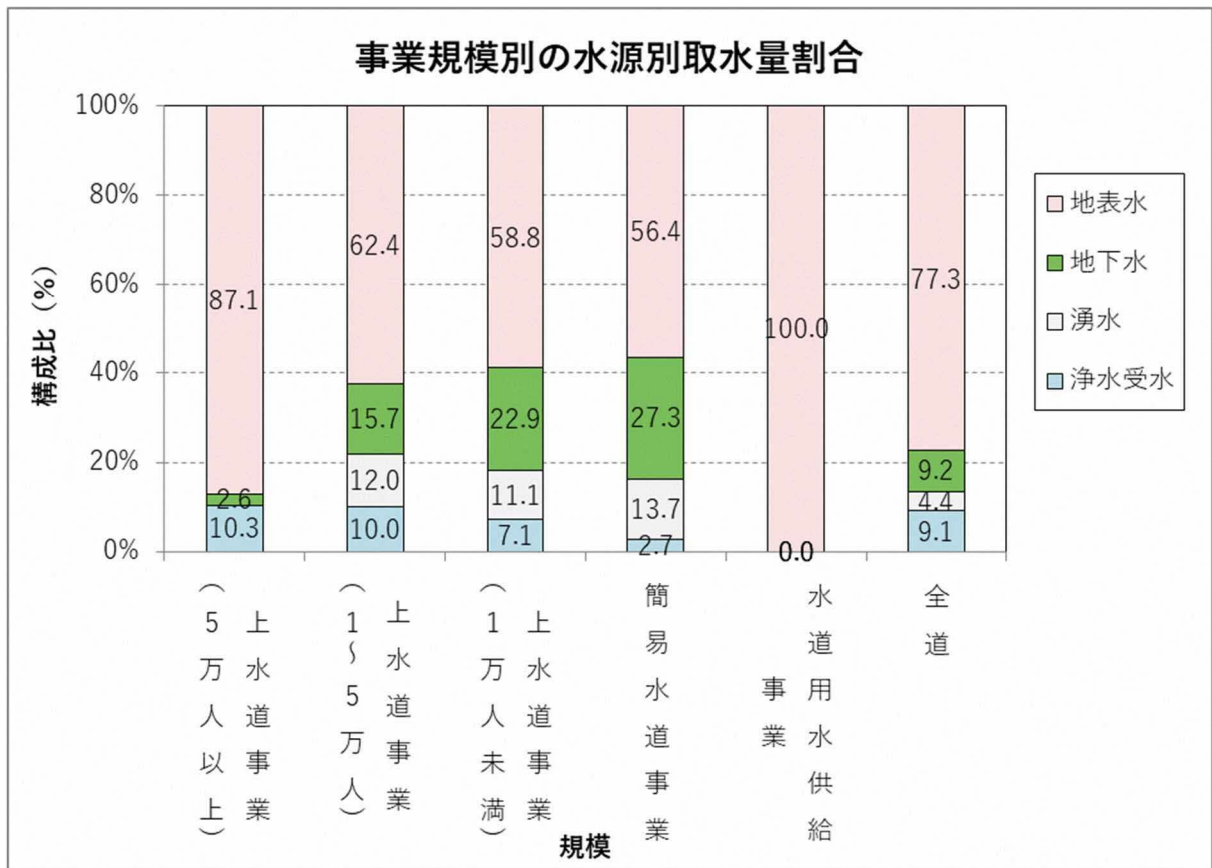
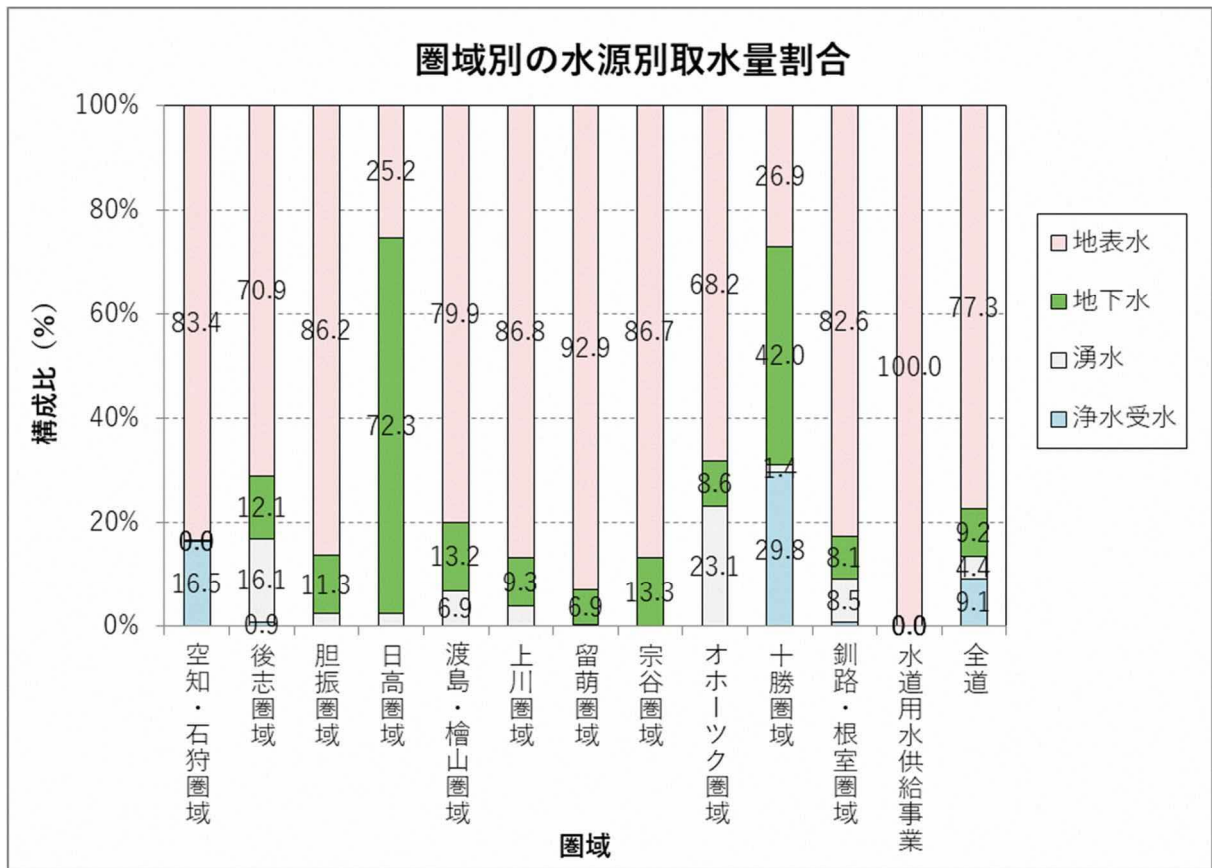
道全体では、8 割が地表水、1 割が地下水、浄水受水となっていますが、圏域別では日高圏域と十勝圏域は地下水の割合が高い他、十勝圏域では浄水受水の割合が高いことが特徴的です。また、水道用水供給事業は、全量ダムを利用しています。

事業規模別では、規模が大きいほど地表水の割合が高く、規模が小さいほど地下水の割合が多くなる傾向がみられます。

圏域名	地表水				地下水			湧水 (千 m ³)	浄水受水 (千 m ³)	合計 (千 m ³)
	ダム直接 (千 m ³)	ダム放流 (千 m ³)	湖沼水 (千 m ³)	表流(自流水) (千 m ³)	伏流水 (千 m ³)	浅井戸 (千 m ³)	深井戸 (千 m ³)			
空知・石狩圏域	5,253 (1.9%)	158,673 (57.7%)	0 (0.0%)	65,432 (23.8%)	90 (0.0%)	20 (0.0%)	9 (0.0%)	0 (0.0%)	45,498 (16.5%)	274,975 (100.0%)
後志圏域	0 (0.0%)	10,481 (34.1%)	0 (0.0%)	11,293 (36.8%)	1,828 (6.0%)	615 (2.0%)	1,277 (4.2%)	4,931 (16.1%)	273 (0.9%)	30,698 (100.0%)
胆振圏域	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1,399 (2.8%)	41,121 (83.4%)	277 (0.6%)	1,941 (3.9%)	3,346 (6.8%)	1,236 (2.5%)	0 (0.0%)	49,320 (100.0%)
日高圏域	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2,417 (25.2%)	1,372 (14.3%)	5,574 (58.0%)	0 (0.0%)	240 (2.5%)	0 (0.0%)	9,603 (100.0%)
渡島・檜山圏域	23,540 (37.7%)	701 (1.1%)	0 (0.0%)	25,648 (41.1%)	2,519 (4.0%)	1,335 (2.1%)	4,421 (7.1%)	4,314 (6.9%)	0 (0.0%)	62,478 (100.0%)
上川圏域	0 (0.0%)	22,620 (38.6%)	0 (0.0%)	28,257 (48.2%)	1,728 (2.9%)	818 (1.4%)	2,912 (5.0%)	2,301 (3.9%)	0 (0.0%)	58,635 (100.0%)
留萌圏域	0 (0.0%)	511 (6.2%)	0 (0.0%)	7,131 (86.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	564 (6.9%)	0 (0.0%)	16 (0.2%)	8,223 (100.0%)
宗谷圏域	7,217 (41.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	7,776 (45.0%)	82 (0.5%)	125 (0.7%)	2,092 (12.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	17,292 (100.0%)
オホーツク圏域	0 (0.0%)	14,302 (29.7%)	0 (0.0%)	18,551 (38.5%)	1,431 (3.0%)	224 (0.5%)	2,501 (5.2%)	11,138 (23.1%)	51 (0.1%)	48,197 (100.0%)
十勝圏域	0 (0.0%)	420 (0.9%)	129 (0.3%)	11,674 (25.7%)	13,250 (29.1%)	916 (2.0%)	4,939 (10.9%)	621 (1.4%)	13,544 (29.8%)	45,493 (100.0%)
釧路・根室圏域	875 (1.7%)	0 (0.0%)	1,238 (2.4%)	40,823 (78.6%)	1,557 (3.0%)	965 (1.9%)	1,705 (3.3%)	4,423 (8.5%)	373 (0.7%)	51,958 (100.0%)
全道	36,885 (5.6%)	207,708 (31.6%)	2,766 (0.4%)	260,124 (39.6%)	24,133 (3.7%)	12,532 (1.9%)	23,765 (3.6%)	29,204 (4.4%)	59,755 (9.1%)	656,872 (100.0%)
水道用水供給事業 (参考)	24,756 (38.6%)	39,448 (61.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	64,204 (100.0%)

※()内は取水量割合

「平成 29 年度 北海道の水道」より



2.4.2 浄水施設(平成 29 年度現在)

道内の浄水施設の状況について、以下のとおり示します。

1) 浄水処理別浄水場数

浄水場の浄水処理方法については、ろ過処理が全体の 2/3 を占めており、新たな水処理方法である膜ろ過も約 7% となっています。

圏域名	消毒のみ	緩速ろ過	急速ろ過	膜ろ過	合計
空知・石狩圏域	2	2	19	5	28
後志圏域	33	9	18	7	67
胆振圏域	17	7	12	3	39
日高圏域	8	9	6	1	24
渡島・檜山圏域	35	41	14	1	91
上川圏域	19	22	26	4	71
留萌圏域	2	2	15	0	19
宗谷圏域	12	10	9	1	32
オホーツク圏域	25	17	20	10	72
十勝圏域	30	32	26	4	92
釧路・根室圏域	20	13	17	8	58
水道用水供給事業	0	0	6	0	6
全道	203 (33.9%)	164 (27.4%)	188 (31.4%)	44 (7.3%)	599 (100.0%)

2.4.3 一日最大給水量

道内の水道事業の一日最大給水量の状況及び推計結果について、以下のとおり示します。

1) 圏域別一日最大給水量推計

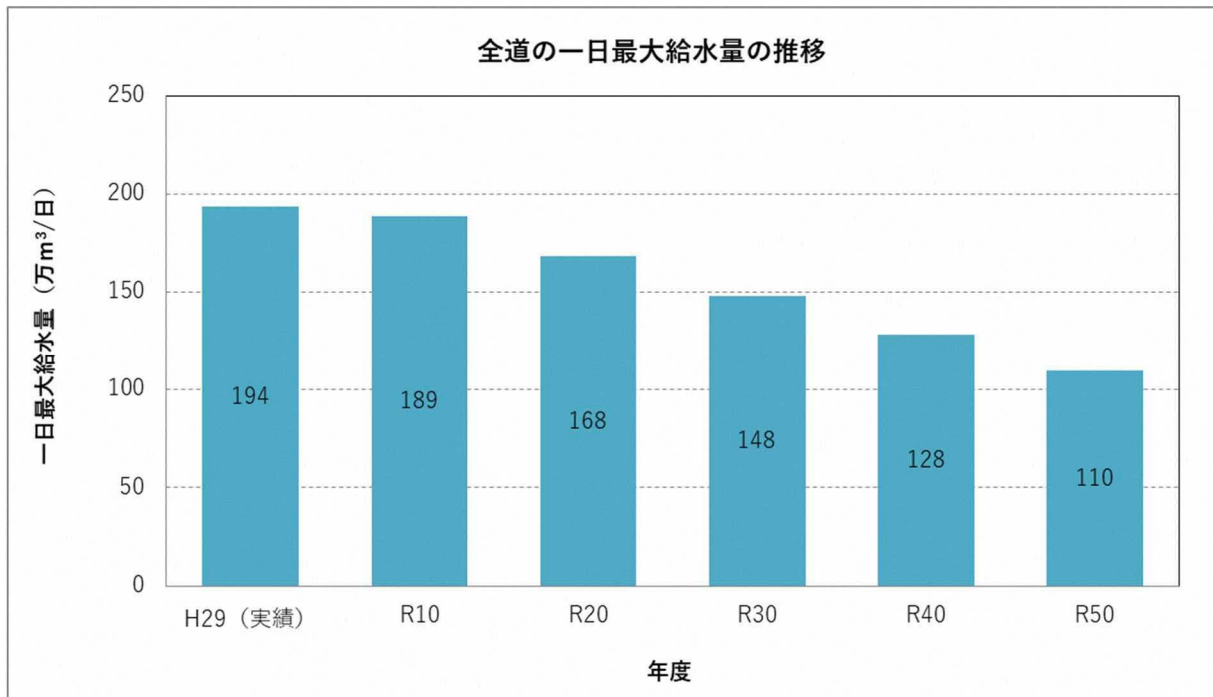
一日最大給水量について、平成 29 年度実績値と令和 10 年度から令和 50 年度までの 10 年ごとの推計値を示します。

圏域名	H29 (実績)	R10	R20	R30	R40	R50
空知・石狩圏域 (m ³ /日)	834,330	835,646	778,774	710,315	638,087	562,390
(%)	(100.0)	(100.2)	(93.3)	(85.1)	(76.5)	(67.4)
後志圏域 (m ³ /日)	98,772	93,997	78,443	64,958	53,904	44,968
(%)	(100.0)	(95.2)	(79.4)	(65.8)	(54.6)	(45.5)
胆振圏域 (m ³ /日)	138,485	132,404	115,548	99,105	84,165	70,465
(%)	(100.0)	(95.6)	(83.4)	(71.6)	(60.8)	(50.9)
日高圏域 (m ³ /日)	30,336	26,200	21,732	17,766	14,425	11,692
(%)	(100.0)	(86.4)	(71.6)	(58.6)	(47.6)	(38.5)
渡島・檜山圏域 (m ³ /日)	178,304	164,423	136,407	110,602	88,370	69,497
(%)	(100.0)	(92.2)	(76.5)	(62.0)	(49.6)	(39.0)
上川圏域 (m ³ /日)	169,809	160,395	138,746	116,844	96,527	77,885
(%)	(100.0)	(94.5)	(81.7)	(68.8)	(56.8)	(45.9)
留萌圏域 (m ³ /日)	24,645	22,741	17,626	13,284	9,804	7,127
(%)	(100.0)	(92.3)	(71.5)	(53.9)	(39.8)	(28.9)
宗谷圏域 (m ³ /日)	43,116	42,693	33,715	25,867	19,440	14,285
(%)	(100.0)	(99.0)	(78.2)	(60.0)	(45.1)	(33.1)
オホーツク圏域 (m ³ /日)	135,776	130,259	110,839	92,362	75,817	61,288
(%)	(100.0)	(95.9)	(81.6)	(68.0)	(55.8)	(45.1)
十勝圏域 (m ³ /日)	139,076	140,637	130,423	119,016	107,130	94,832
(%)	(100.0)	(101.1)	(93.8)	(85.6)	(77.0)	(68.2)
釧路・根室圏域 (m ³ /日)	143,079	136,406	122,446	108,733	96,199	84,992
(%)	(100.0)	(95.3)	(85.6)	(76.0)	(67.2)	(59.4)
全道 (m ³ /日)	1,935,728	1,885,801	1,684,699	1,478,852	1,283,868	1,099,421
(%)	(100.0)	(97.4)	(87.0)	(76.4)	(66.3)	(56.8)

※ () 内は、H29 (実績値) を 100 とした値[一日最大給水量率]

2) 全道（北海道）の一日最大給水量の推移

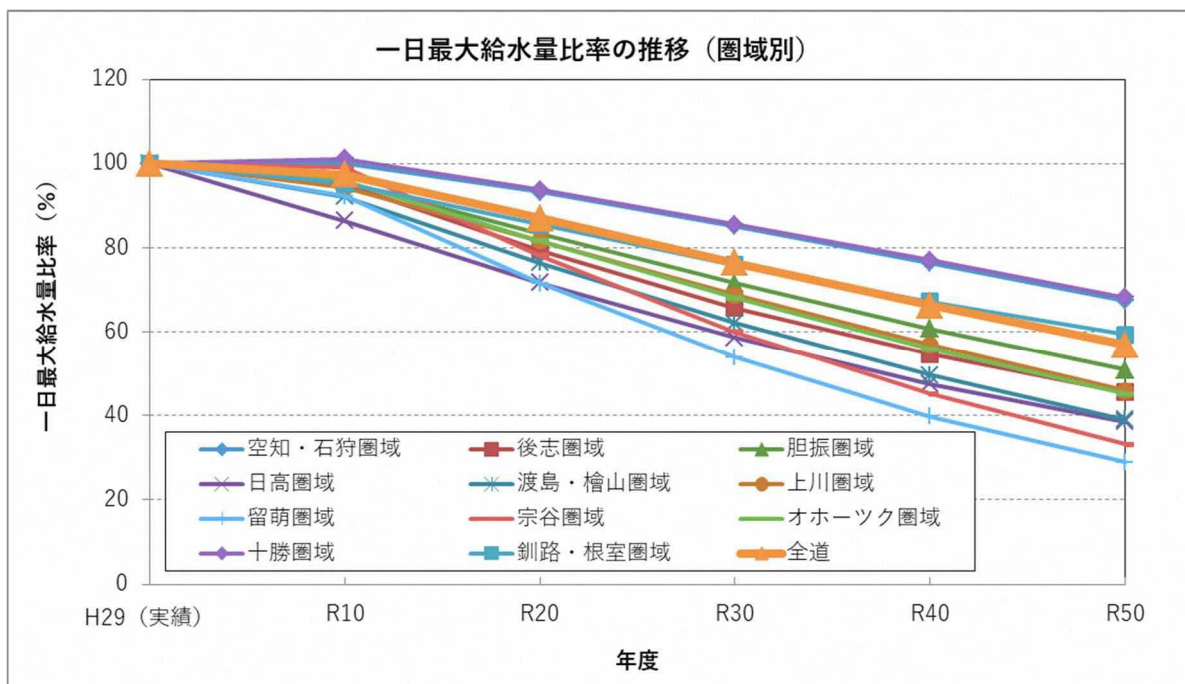
全道の一日最大給水量は給水人口の減少に伴い、令和 50 年度には平成 29 年度の半分近くまで減少する見込みです。



※H29 は実績値。それ以外は推計値。

3) 圏域別の一日最大給水量比率の推移

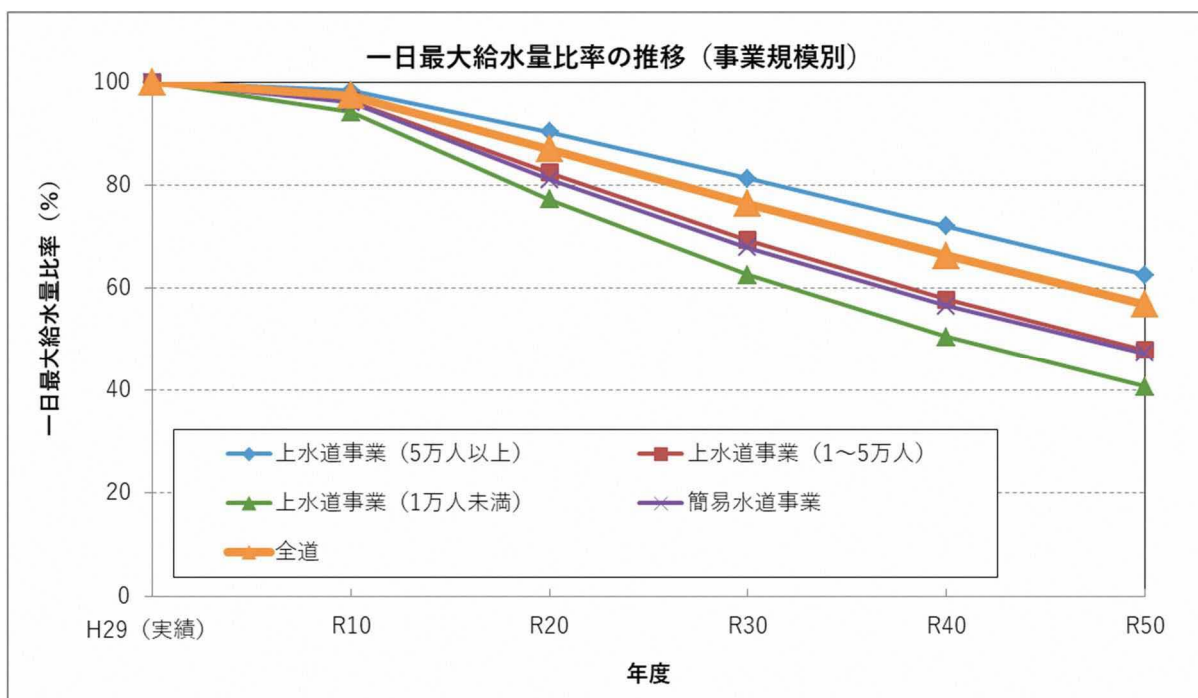
平成 29 年度実績値を 100 とした場合の圏域別の一日最大給水量は、給水人口と同様に留萌圏域、宗谷圏域、日高圏域、渡島・檜山圏域など人口規模が小規模な圏域ほど減少が大きくなる傾向を示しています。



※一日最大給水量比率 (%) = 当該年度の一日最大給水量 (推計値) / 平成 29 年度の一日最大給水量 (実績値) × 100

4) 事業規模別の一日最大給水量比率の推移

平成 29 年度実績値を 100 とした場合の事業規模別の一日最大給水量は、上水道事業に関しては、給水人口と同様に事業規模が小さいほど減少が大きくなる傾向を示しています。



※一日最大給水量比率 (%) = 当該年度の一日最大給水量 (推計値) / 平成 29 年度の一日最大給水量 (実績値) × 100

2.4.4 最大稼働率

道内における浄水場の最大稼働率の状況及び推計結果について、以下のとおり示します。

なお、最大稼働率の推計値は、平成 29 年度末現在の施設能力を一定とした場合の計算値としています。

1) 圏域別最大稼働率推計

圏域別における浄水場の最大稼働率について、平成 29 年度実績値と令和 10 年度から令和 50 年度までの 10 年ごとの推計値を示します。

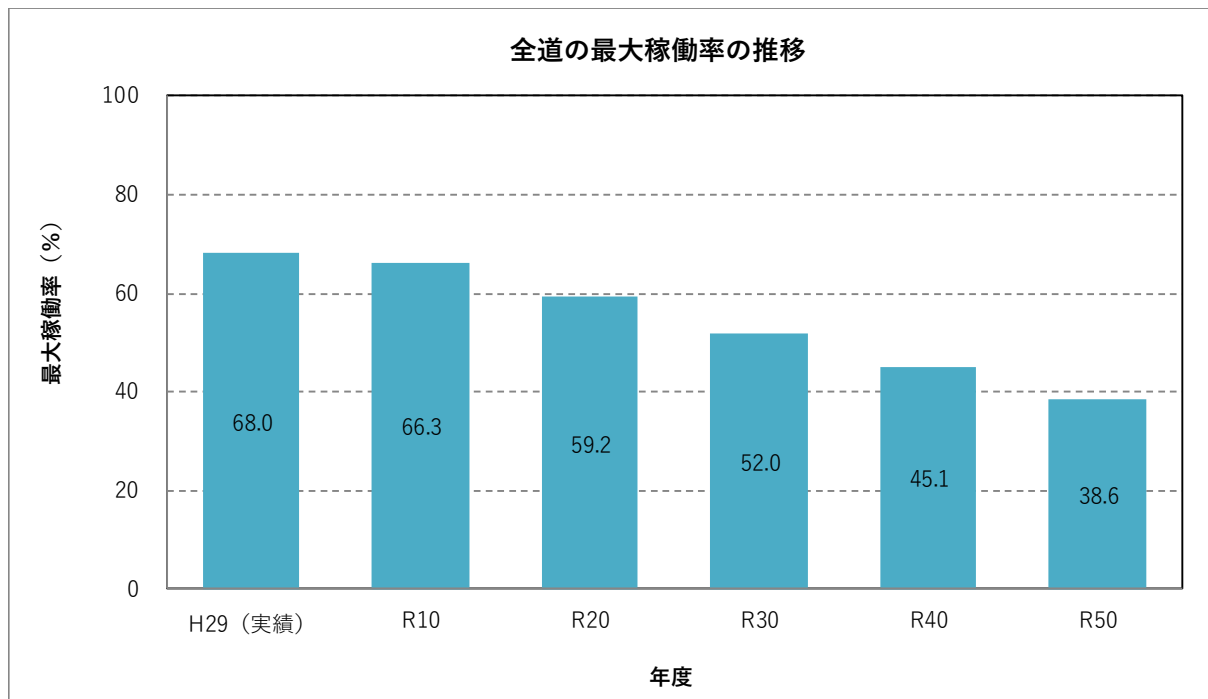
圏域名	H29 (実績)	R10	R20	R30	R40	R50	施設能力 (H29年度現在)
空知・石狩圏域 (m ³ /日) (%)	834,330 67.3	835,646 67.4	778,774 62.8	710,315 57.3	638,087 51.5	562,390 45.4	1,239,638
後志圏域 (m ³ /日) (%)	98,772 73.7	93,997 70.1	78,443 58.5	64,958 48.4	53,904 40.2	44,968 33.5	134,106
胆振圏域 (m ³ /日) (%)	138,485 66.0	132,404 63.1	115,548 55.1	99,105 47.2	84,165 40.1	70,465 33.6	209,824
日高圏域 (m ³ /日) (%)	30,336 75.3	26,200 65.0	21,732 53.9	17,766 44.1	14,425 35.8	11,692 29.0	40,312
渡島・檜山圏域 (m ³ /日) (%)	178,304 73.9	164,423 68.1	136,407 56.5	110,602 45.8	88,370 36.6	69,497 28.8	241,346
上川圏域 (m ³ /日) (%)	169,809 71.3	160,395 67.4	138,746 58.3	116,844 49.1	96,527 40.5	77,885 32.7	238,077
留萌圏域 (m ³ /日) (%)	24,645 72.5	22,741 66.9	17,626 51.9	13,284 39.1	9,804 28.9	7,127 21.0	33,975
宗谷圏域 (m ³ /日) (%)	43,116 51.4	42,693 50.9	33,715 40.2	25,867 30.8	19,440 23.2	14,285 17.0	83,858
オホーツク圏域 (m ³ /日) (%)	135,776 69.9	130,259 67.1	110,839 57.1	92,362 47.6	75,817 39.1	61,288 31.6	194,138
十勝圏域 (m ³ /日) (%)	139,076 67.1	140,637 67.8	130,423 62.9	119,016 57.4	107,130 51.7	94,832 45.7	207,324
釧路・根室圏域 (m ³ /日) (%)	143,079 64.3	136,406 61.3	122,446 55.0	108,733 48.9	96,199 43.2	84,992 38.2	222,475
全道 (m ³ /日) (%)	1,935,728 68.0	1,885,801 66.3	1,684,699 59.2	1,478,852 52.0	1,283,868 45.1	1,099,421 38.6	2,845,073

※上段は一日最大給水量（H29 年度は実績値。それ以外は推計値。）

※下段は最大稼働率（最大稼働率（%）＝当該年度の一日最大給水量/施設能力（H29 年度現在）×100）

2) 全道の最大稼働率の推移

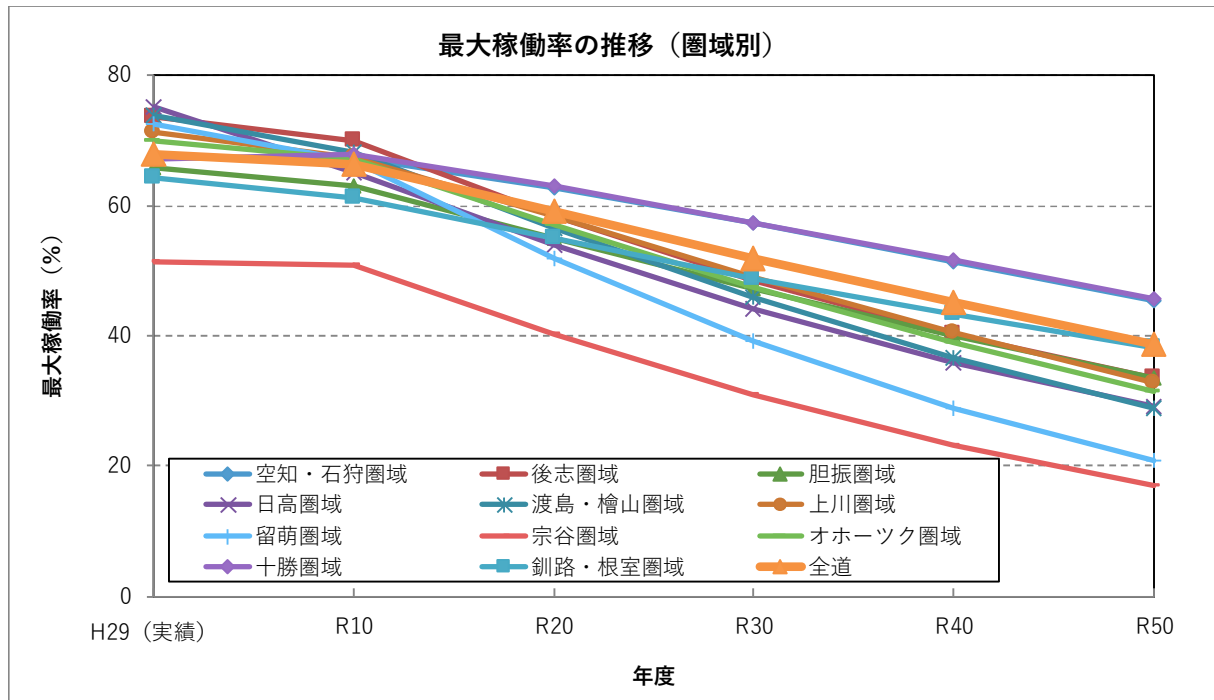
全道の最大稼働率は、給水人口の減少に伴い、令和 50 年度には平成 29 年度の半分近くまで減少する見込みであり、今まで以上に施設規模が過大な状況となることが想定されます。



※H29 は実績値。それ以外は推計値。最大稼働率 (%) = 当該年度の一日最大給水量/施設能力 (H29 年度現在) × 100

3) 圏域別の最大稼働率の推移

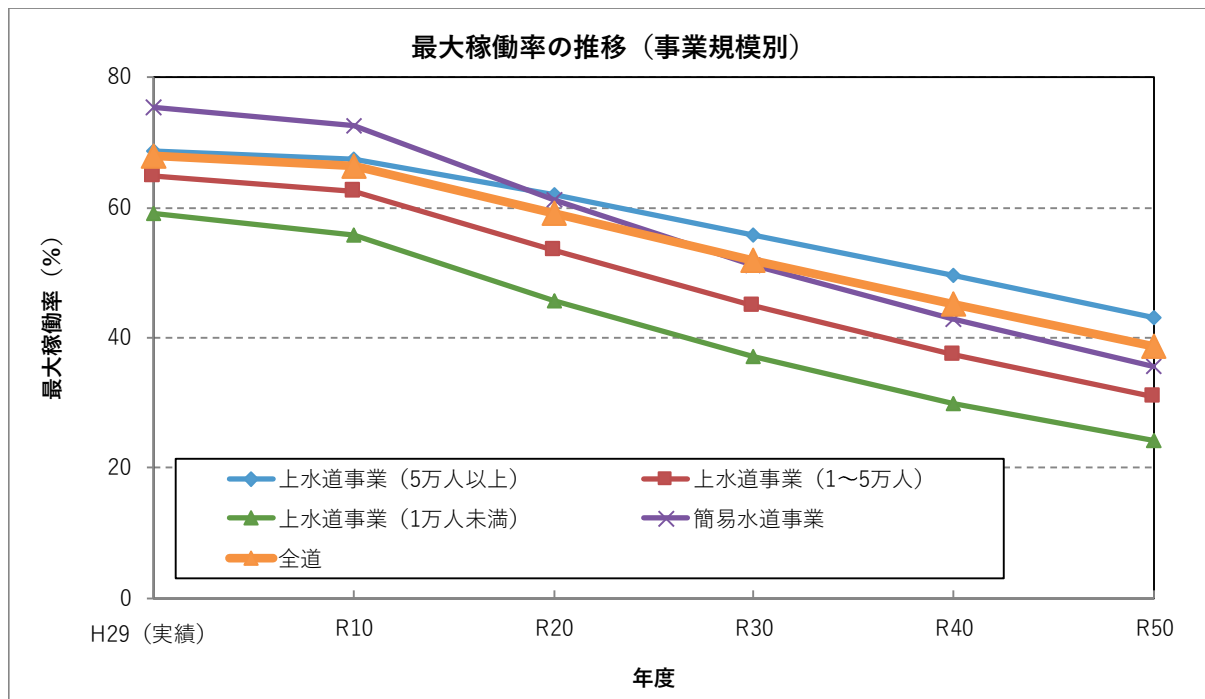
平成29年度実績値を100とした場合の圏域別の最大稼働率は、給水人口と同様に留萌圏域、宗谷圏域、日高圏域、渡島・檜山圏域など人口規模が小規模な圏域ほど減少が大きくなる傾向を示しています。



※H29は実績値。それ以外は推計値。※最大稼働率(%) = 当該年度の一日最大給水量/施設能力(H29年度現在) × 100

4) 事業規模別最大稼働率の推移

平成 29 年度実績値を 100 とした場合の事業規模別の最大稼働率は、上水道事業に関しては給水人口と同様に事業規模が小さいほど減少が大きくなる傾向を示しています。



※H29 は実績値。それ以外は推計値。※最大稼働率 (%) = 当該年度の一日最大給水量/施設能力 (H29 年度現在) × 100

2.4.5 管路延長(平成 29 年度現在)

道内の管路延長の状況について、以下のとおり示します。

全道の管路延長は、9 割弱を配水支管が占めています。なお、簡易水道事業については、配水本管と配水支管の種別がないため、全て配水支管に計上しています。

圏域名	導水管 (k m)	送水管 (k m)	配水本管 (k m)	配水支管 (k m)	合計 (k m)
空知・石狩圏域	106 (0.7%)	330 (2.2%)	1,193 (8.0%)	13,241 (89.0%)	14,870 (100.0%)
後志圏域	109 (4.6%)	164 (6.9%)	27 (1.1%)	2,076 (87.4%)	2,376 (100.0%)
胆振圏域	85 (2.3%)	206 (5.6%)	147 (4.0%)	3,239 (88.1%)	3,678 (100.0%)
日高圏域	46 (3.9%)	135 (11.4%)	5 (0.4%)	993 (84.2%)	1,180 (100.0%)
渡島・檜山圏域	204 (5.7%)	150 (4.2%)	228 (6.4%)	3,007 (83.8%)	3,589 (100.0%)
上川圏域	157 (2.9%)	129 (2.4%)	211 (3.9%)	4,855 (90.7%)	5,353 (100.0%)
留萌圏域	55 (5.2%)	88 (8.3%)	20 (1.9%)	896 (84.6%)	1,059 (100.0%)
宗谷圏域	177 (10.7%)	82 (4.9%)	96 (5.8%)	1,302 (78.6%)	1,657 (100.0%)
オホーツク圏域	262 (6.1%)	338 (7.9%)	392 (9.1%)	3,306 (76.9%)	4,298 (100.0%)
十勝圏域	195 (3.1%)	256 (4.0%)	376 (5.9%)	5,537 (87.0%)	6,363 (100.0%)
釧路・根室圏域	205 (4.4%)	289 (6.2%)	111 (2.4%)	4,059 (87.0%)	4,663 (100.0%)
水道用水供給事業	34 (10.3%)	298 (89.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	332 (100.0%)
全道	1,636 (3.3%)	2,463 (5.0%)	2,806 (5.7%)	42,512 (86.0%)	49,417 (100.0%)

※ () 内は、管路延長比率

2.4.6 アセットマネジメント実施状況（令和元年9月末現在）

計画的な施設の更新と必要な資金確保等について検討を行う「アセットマネジメント」の実施状況については以下のとおりであり、規模が大きいほど実施率が高くなっています。

また、圏域別でみると実施率にばらつきがある状況です。

圏域名	水道事業経営自治体管内の給水人口 ※（ ）内は実施率					水道事業等 経営自治体
	5万人以上	1～5万人	0.5～1万人	0.5万人未満	全体	
空知・石狩圏域	8 (100.0%)	6 (75.0%)	3 (75.0%)	3 (60.0%)	20 (80.0%)	25
後志圏域	1 (100.0%)	3 (100.0%)	0 (-)	1 (6.3%)	5 (25.0%)	20
胆振圏域	2 (100.0%)	2 (66.7%)	2 (66.7%)	2 (66.7%)	8 (72.7%)	11
日高圏域	0 (-)	2 (66.7%)	0 (-)	1 (25.0%)	3 (42.9%)	7
渡島・檜山圏域	0 (0.0%)	4 (100.0%)	2 (50.0%)	3 (33.3%)	9 (50.0%)	18
上川圏域	1 (100.0%)	2 (50.0%)	1 (25.0%)	1 (7.7%)	5 (22.7%)	22
留萌圏域	0 (-)	1 (100.0%)	0 (0.0%)	2 (33.3%)	3 (37.5%)	8
宗谷圏域	0 (-)	1 (100.0%)	0 (0.0%)	2 (25.0%)	3 (30.0%)	10
オホーツク圏域	1 (100.0%)	4 (80.0%)	1 (50.0%)	1 (10.0%)	7 (38.9%)	18
十勝圏域	1 (100.0%)	2 (66.7%)	6 (75.0%)	0 (0.0%)	9 (47.4%)	19
釧路・根室圏域	1 (100.0%)	3 (100.0%)	0 (0.0%)	1 (33.3%)	5 (38.5%)	13
水道用水供給事業	5 (100.0%)					5
全道 (水道用水供給事業除)	15 (93.8%)	30 (78.9%)	15 (45.5%)	17 (20.2%)	77 (45.0%)	171

※複数の水道事業の回答があった自治体において、異なる回答の場合は「実施」としている。

2.4.7 更新計画策定状況（令和元年9月末現在）

更新計画の策定状況については以下のとおりであり、全道的には浄水場、ポンプ場・配水池については3割弱、管路については4割強の策定率となっています。また、圏域別でみると、策定率にばらつきがある状況です。

圏域名	策定自治体数 ※（ ）内は策定率			水道事業等 経営自治体
	浄水場	ポンプ場・配水池	管路	
空知・石狩圏域	5 (20.0%)	8 (32.0%)	18 (72.0%)	25
後志圏域	3 (15.0%)	4 (20.0%)	8 (40.0%)	20
胆振圏域	4 (36.4%)	5 (45.5%)	6 (54.5%)	11
日高圏域	3 (42.9%)	4 (57.1%)	3 (42.9%)	7
渡島・檜山圏域	5 (27.8%)	5 (27.8%)	9 (50.0%)	18
上川圏域	7 (31.8%)	4 (18.2%)	8 (36.4%)	22
留萌圏域	2 (25.0%)	2 (25.0%)	1 (12.5%)	8
宗谷圏域	5 (50.0%)	5 (50.0%)	4 (40.0%)	10
オホーツク圏域	3 (16.7%)	3 (16.7%)	5 (27.8%)	18
十勝圏域	4 (21.1%)	4 (21.1%)	6 (31.6%)	19
釧路・根室圏域	3 (23.1%)	4 (30.8%)	4 (30.8%)	13
水道用水供給事業	1 (20.0%)	1 (20.0%)	2 (40.0%)	5
全道	45 (25.6%)	49 (27.8%)	74 (42.0%)	176

※複数の水道事業の回答があった自治体において、異なる回答の場合は「策定」としている。

2.4.8 管路経年化率(平成 29 年度現在)

道内の上水道事業及び水道用水供給事業における管路の経年化率(法定耐用年数 40 年を超える管路延長/管路総延長)の状況について、以下のとおり示します。

1) 圏域別事業規模別(給水人口別)の管路経年化率(平成 29 年度現在)

事業規模別でみると、全国平均では規模が小さいほど経年化率が低くなるのに対し、全道平均では規模間に大きな差はなく、全体として全国に比べ経年化が進んでいる状況です。

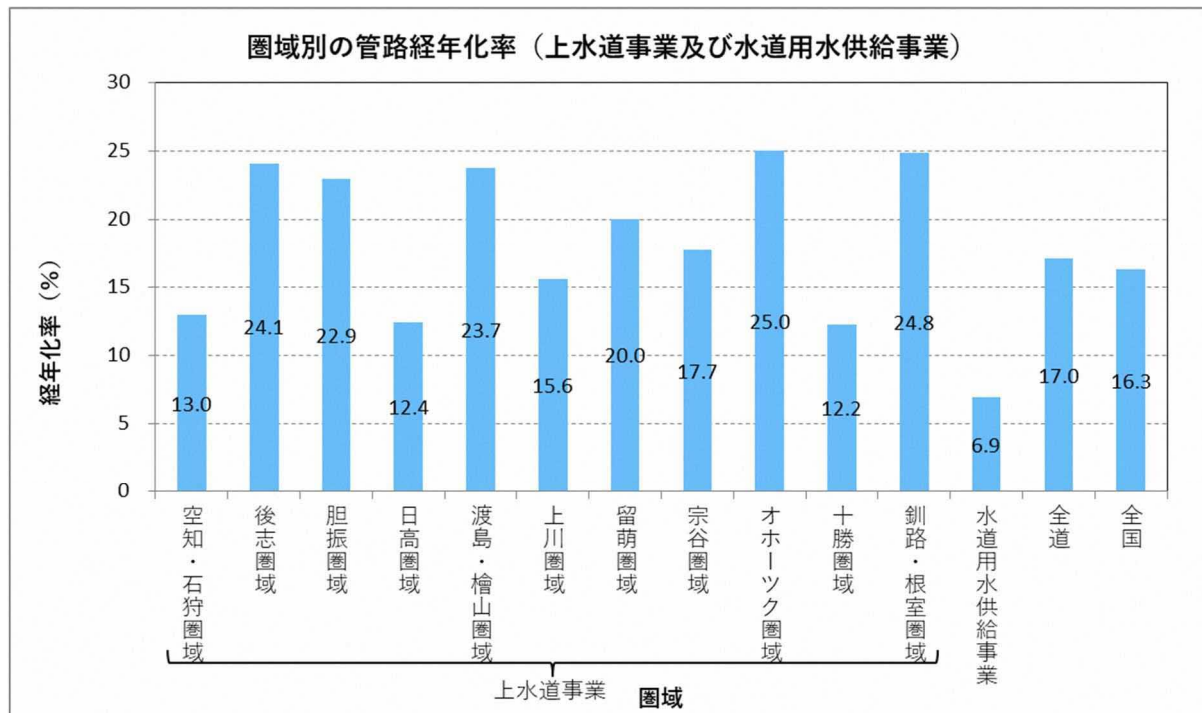
なお、簡易水道事業については、水道統計資料にないため割愛しています。

圏域名	上水道事業及び水道用水供給事業の管路経年化率			
	5万人以上	1~5万人	1万人未満	全体
	(%)	(%)	(%)	(%)
空知・石狩圏域	12.1	16.0	15.4	13.0
後志圏域	23.5	24.9	—	24.1
胆振圏域	27.0	16.3	17.8	22.9
日高圏域	—	12.5	10.4	12.4
渡島・檜山圏域	29.4	15.8	21.7	23.7
上川圏域	14.3	13.5	20.5	15.6
留萌圏域	—	35.7	10.4	20.0
宗谷圏域	—	0.1	78.1	17.7
オホーツク圏域	30.4	25.4	15.4	25.0
十勝圏域	14.4	12.0	10.2	12.2
釧路・根室圏域	29.5	25.9	12.8	24.8
水道用水供給事業	7.9	0.0	—	6.9
全道	16.8	17.6	17.0	17.0
全国	17.7	13.1	11.5	16.3

※管路経年化率(%) = 法定耐用年数 40 年を超えた管路延長/管路総延長 × 100

2) 圏域別の管路経年化率（平成 29 年度現在）

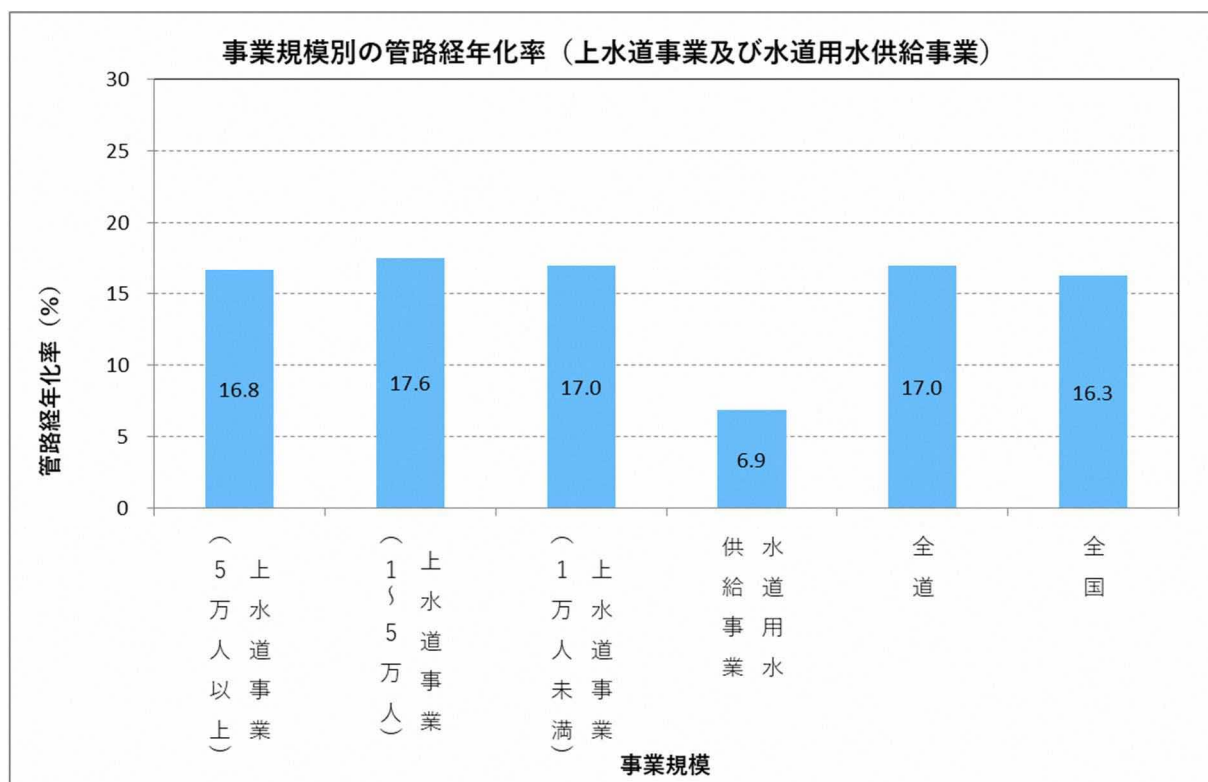
圏域別の管路の経年化の状況は以下のとおりであり、圏域間で 12.2%～25.0%と 2 倍以上のひらきがあります。



※管路経年化率 (%) = 法定耐用年数 40 年を超えた管路延長/管路総延長 × 100

3) 事業規模別（給水人口別）の管路経年化率（平成 29 年度現在）

事業規模別の管路の経年化の状況は、以下のとおりです。



※管路経年化率 (%) = 法定耐用年数 40 年を超えた管路延長/管路総延長 × 100

2.4.9 耐震化計画策定状況(令和元年9月末現在)

耐震化計画の策定状況については以下のとおりであり、全道的には浄水場、配水池は2割弱、管路は若干高い3割弱の策定率となっています。また、圏域別でみると策定率にばらつきがある状況です。

圏域名	策定自治体数 ※ () 内は策定率			水道事業等 経営自治体
	浄水場	配水池	管路	
空知・石狩圏域	5 (20.0%)	7 (28.0%)	12 (48.0%)	25
後志圏域	1 (5.0%)	2 (10.0%)	5 (25.0%)	20
胆振圏域	4 (36.4%)	4 (36.4%)	4 (36.4%)	11
日高圏域	1 (14.3%)	1 (14.3%)	4 (57.1%)	7
渡島・檜山圏域	2 (11.1%)	1 (5.6%)	3 (16.7%)	18
上川圏域	2 (9.1%)	1 (4.5%)	4 (18.2%)	22
留萌圏域	1 (12.5%)	1 (12.5%)	1 (12.5%)	8
宗谷圏域	2 (20.0%)	2 (20.0%)	2 (20.0%)	10
オホーツク圏域	2 (11.1%)	2 (11.1%)	1 (5.6%)	18
十勝圏域	3 (15.8%)	4 (21.1%)	4 (21.1%)	19
釧路・根室圏域	2 (15.4%)	3 (23.1%)	3 (23.1%)	13
水道用水供給事業	4 (80.0%)	3 (60.0%)	3 (60.0%)	5
全道	29 (16.5%)	31 (17.6%)	46 (26.1%)	176

※複数の水道事業の回答があった自治体において、異なる回答の場合は「策定」としている。

2.4.10 基幹管路の耐震適合率（平成 29 年度現在）

道内の上水道事業及び水道用水供給事業における基幹管路の耐震適合率（耐震適合性のある基幹管路の延長/基幹管路の総延長）の状況について、以下のとおり示します。

1) 圏域別事業規模別（給水人口別）の基幹管路の耐震適合率

全道平均では全ての規模で全国平均を上回っており、全体として基幹管路^{※1}においては全国に比べ耐震適合性^{※2}がある管路の布設が進んでいる状況です。

しかし、事業規模別では 25.0%～52.7%と 2 倍以上のひらきがあるほか、圏域による差も大きい状況です。

なお、簡易水道事業については、配水本管と配水支管の区別が無く、基幹管路が導水管と送水管しか計上できないため割愛しています。

（※1）基幹管路とは、導水管、送水管及び配水本管のことをいい、配水本管とは配水管のうち直接給水管を分岐しない管をいいます。

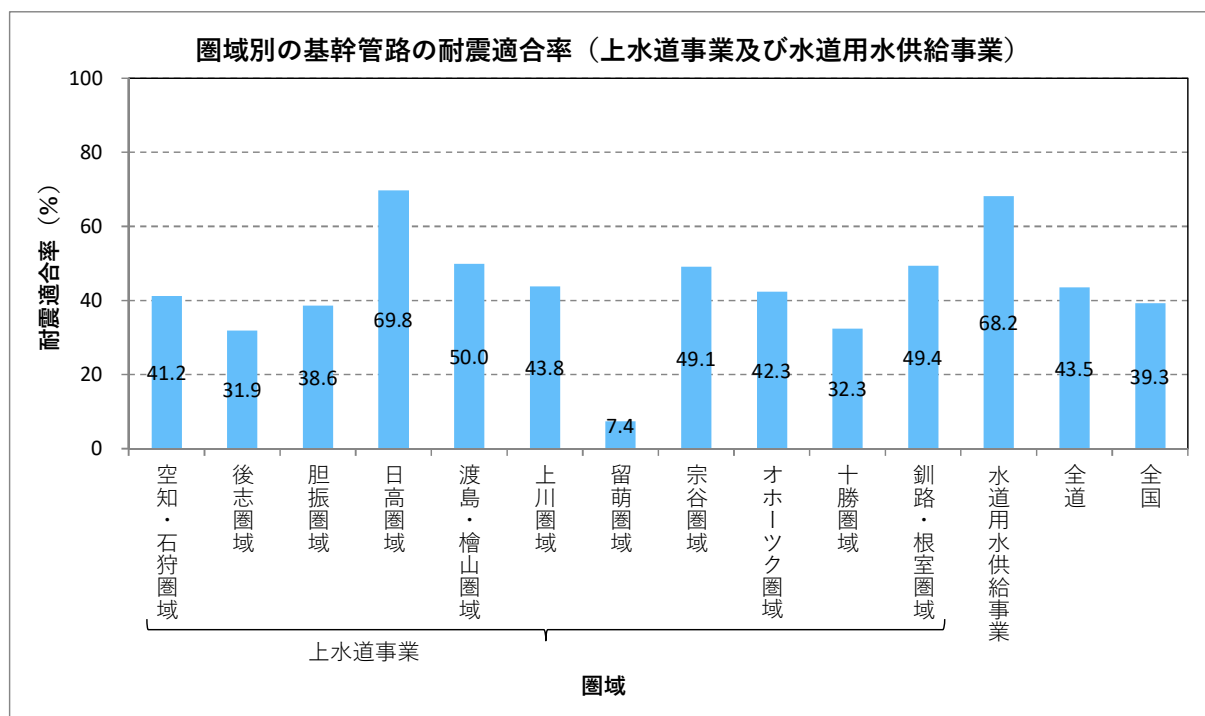
（※2）耐震適合性のある管とは、耐震管以外でも管路が布設された地盤の性状を勘案すれば耐震性があると評価できる管路であり、それらを耐震管に加えたものを言います。

圏域名	上水道事業及び水道用水供給事業の耐震適合率			
	5万人以上	1～5万人	1万人未満	全体
	(%)	(%)	(%)	(%)
空知・石狩圏域	45.6	52.0	25.9	41.2
後志圏域	29.0	39.8	—	31.9
胆振圏域	66.0	7.9	9.0	38.6
日高圏域	—	72.0	0.0	69.8
渡島・檜山圏域	55.1	28.9	60.6	50.0
上川圏域	63.1	50.0	28.4	43.8
留萌圏域	—	5.7	9.0	7.4
宗谷圏域	—	57.0	40.0	49.1
オホーツク圏域	26.1	74.7	8.5	42.3
十勝圏域	52.0	45.5	11.0	32.3
釧路・根室圏域	38.5	65.6	28.6	49.4
水道用水供給事業	78.1	2.7	—	68.2
全道	49.5	52.7	25.0	43.5
全国	48.1	26.0	24.1	39.3

※基幹管路の耐震適合率＝耐震適合性のある基幹管路の延長/基幹管路の総延長×100

2) 圏域別の基幹管路の耐震適合率

圏域別の基幹管路の耐震適合性については、日高圏域の69.8%をはじめ全国平均を上回る圏域が多くある一方で、留萌圏域では10%を下回り、他の圏域との差が大きい状況です。

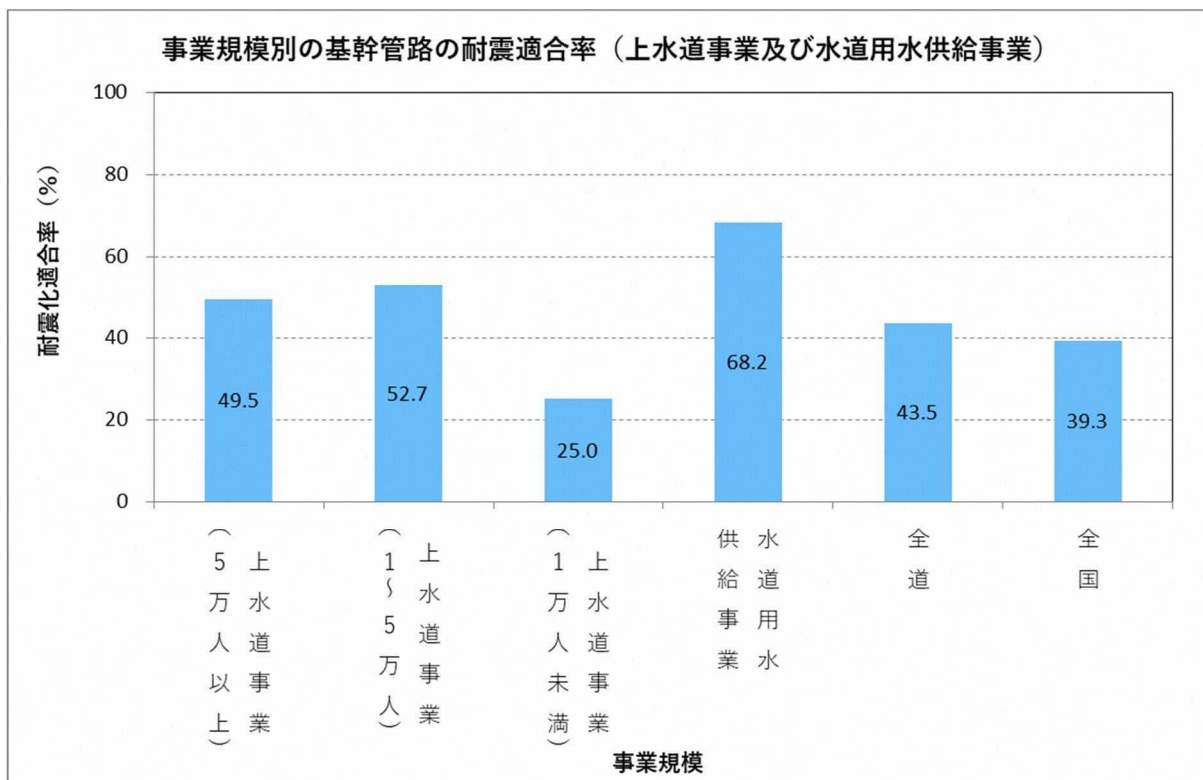


※基幹管路の耐震適合率 (%) = 耐震適合性のある基幹管路の延長/基幹管路の総延長 × 100

3) 事業規模別（給水人口別）の基幹管路の耐震適合率

事業規模別の基幹管路の耐震適合性については、以下のとおりです。

1万人未満の規模では、1万人以上の規模に比べ耐震適合率が約半分に留まっています。



※基幹管路の耐震適合率 (%) = 耐震適合性のある基幹管路の延長/基幹管路の総延長×100

2.4.11 浄水場の耐震化率(平成 29 年度現在)

道内の上水道事業及び水道用水供給事業における浄水場の耐震化率（耐震化浄水施設能力/全浄水施設能力）の状況について、以下のとおり示します。

1) 圏域別事業規模別（給水人口別）の浄水場の耐震化率

事業規模別の全道平均は、1万人未満の規模で全国平均に近いほかは全国平均を大きく下回り、全体として浄水場の耐震化は進んでいない状況です。また、圏域別では0%のところもあるなど、圏域による差が大きい状況です。

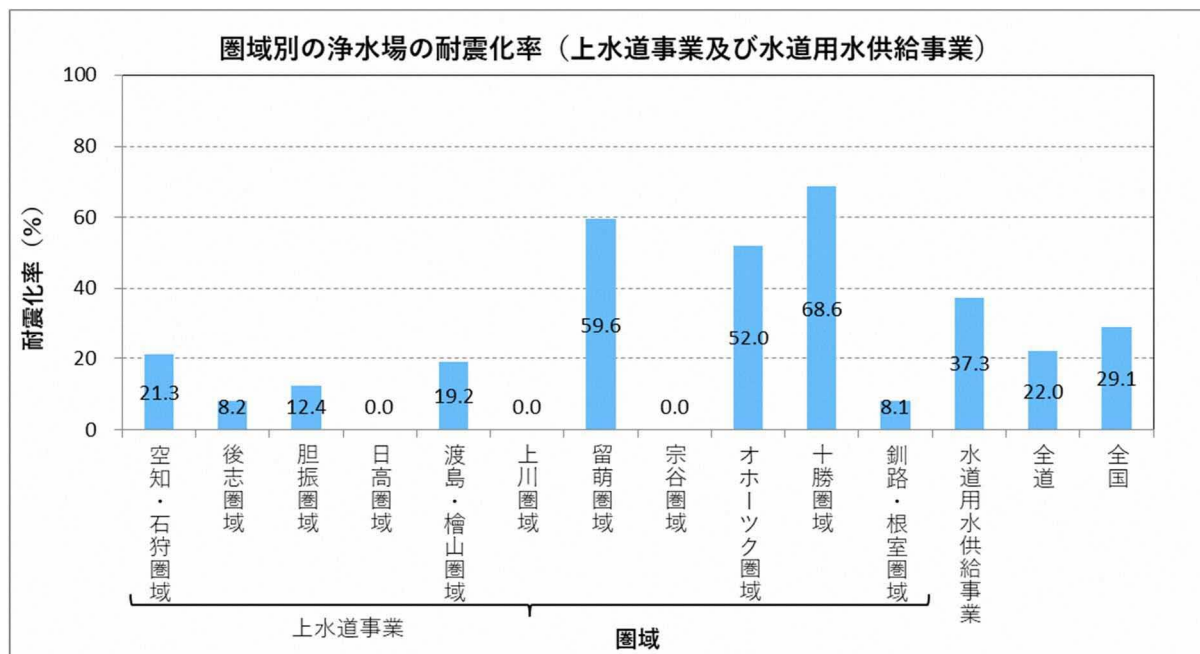
なお、簡易水道事業については、水道統計資料にないため割愛しています。

圏域名	上水道事業及び水道用水供給事業の浄水場の耐震化率			
	5万人以上 (%)	1～5万人 (%)	1万人未満 (%)	全体 (%)
空知・石狩圏域	21.6	9.3	61.3	21.3
後志圏域	0.0	25.7	—	8.2
胆振圏域	12.0	4.3	37.0	12.4
日高圏域	—	0.0	0.0	0.0
渡島・檜山圏域	15.6	35.2	12.1	19.2
上川圏域	0.0	0.0	0.0	0.0
留萌圏域	—	100.0	0.0	59.6
宗谷圏域	—	0.0	0.0	0.0
オホーツク圏域	100.0	1.3	59.3	52.0
十勝圏域	97.3	87.2	12.4	68.6
釧路・根室圏域	0.0	15.3	20.5	8.1
水道用水供給事業	40.5	0.0	—	37.3
全道	23.8	14.7	22.0	22.0
全国	30.4	20.9	21.1	29.1

※浄水場の耐震化率(%) = 耐震化浄水施設能力/全浄水施設能力 × 100

2) 圏域別の浄水場の耐震化率

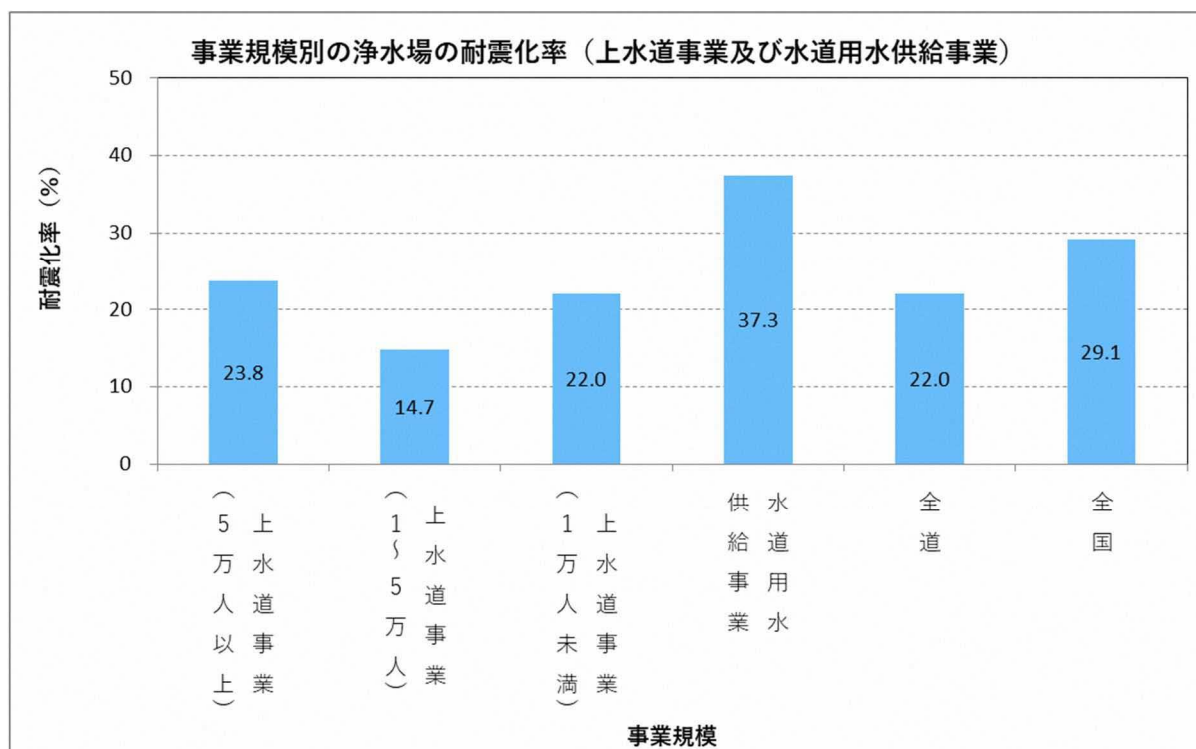
圏域別の浄水場の耐震化の状況については、十勝、留萌、オホーツク圏域が全国平均を大きく上回っていますが、日高、上川、宗谷圏域は 0%であり、圏域間の格差が大きい状況です。



※浄水場の耐震化率 (%) = 耐震化浄水施設能力/全浄水施設能力×100

3) 事業規模別（給水人口別）の浄水場の耐震化率

事業規模別の浄水場の耐震化の状況については、以下のとおりです。



※浄水場の耐震化率 (%) = 耐震化浄水施設能力/全浄水施設能力 × 100

2.4.12 配水池の耐震化率(平成 29 年度現在)

道内の上水道事業及び水道用水供給事業における配水池の耐震化率（耐震化有効容量/全有効容量）について、以下のとおり示します。

1) 圏域別事業規模別（給水人口別）の配水池の耐震化率

事業規模別の全道平均は、5 万人以上の規模で全国平均に近いほかは全国平均を下回るとともに、圏域による差も大きく、全体として耐震化があまり進んでいない状況です。

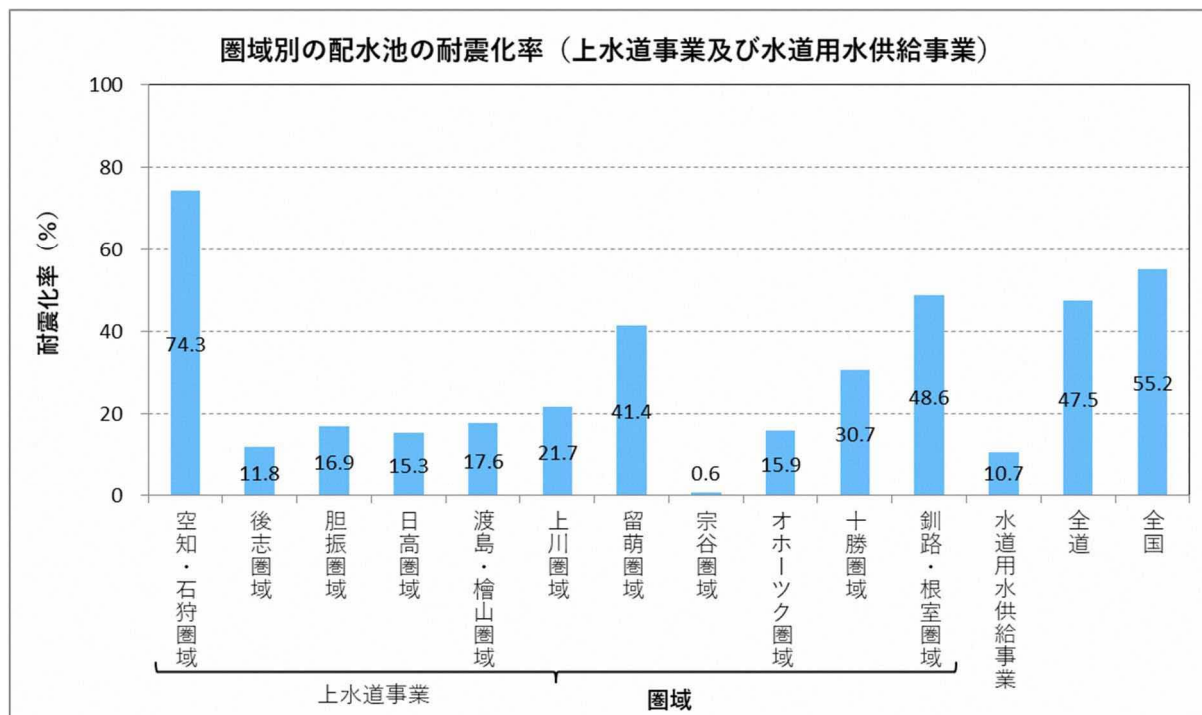
なお、簡易水道事業については、水道統計資料に無いため割愛しています。

圏域名	上水道事業及び水道用水供給事業の配水池の耐震化率			
	5万人以上 (%)	1～5万人 (%)	1万人未満 (%)	全体 (%)
空知・石狩圏域	79.5	22.3	20.9	74.3
後志圏域	17.1	0.0	—	11.8
胆振圏域	18.0	11.0	27.6	16.9
日高圏域	—	16.6	0.0	15.3
渡島・檜山圏域	8.7	36.4	22.9	17.6
上川圏域	22.2	30.3	5.1	21.7
留萌圏域	—	100.0	0.0	41.4
宗谷圏域	—	0.7	0.0	0.6
オホーツク圏域	25.3	8.0	20.3	15.9
十勝圏域	0.0	75.2	6.4	30.7
釧路・根室圏域	91.0	19.0	0.0	48.6
水道用水供給事業	10.7	—	—	10.7
全道	58.6	22.8	12.1	47.5
全国	59.4	36.8	21.9	55.2

※配水池の耐震化率（％）＝耐震化有効容量/全有効容量×100

2) 圏域別の配水池の耐震化率

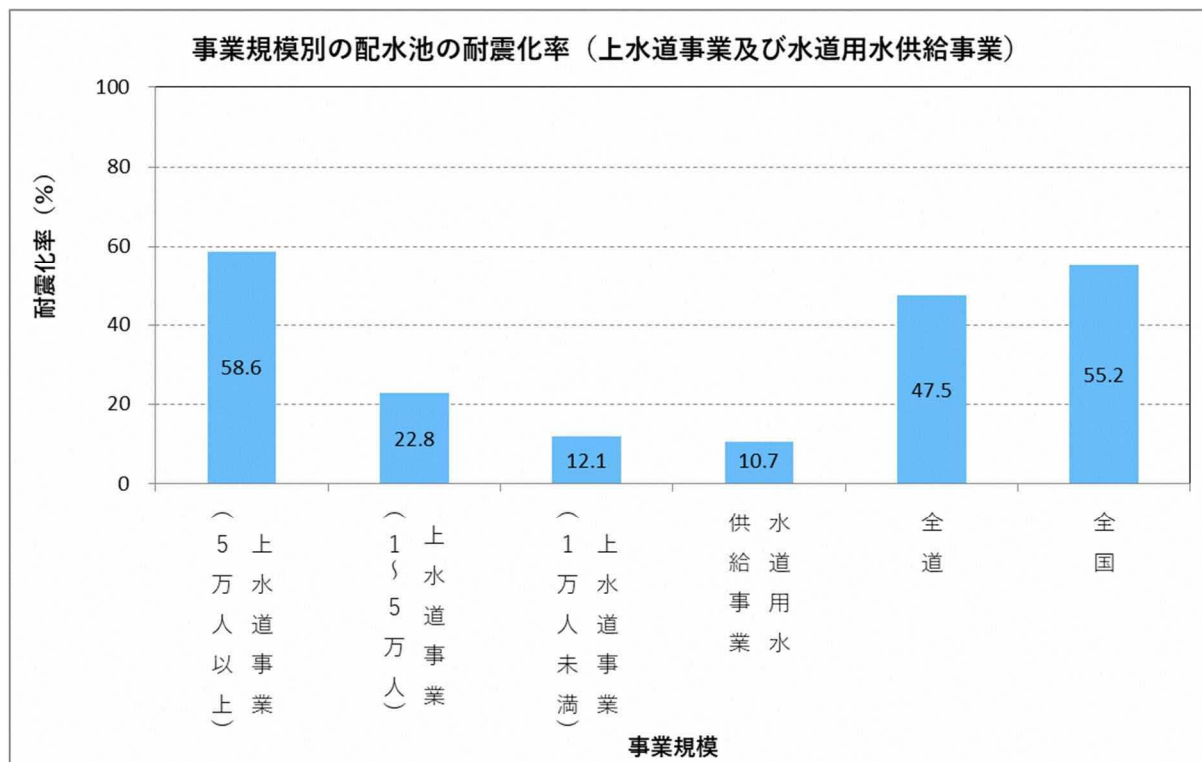
圏域別の配水池の耐震化の状況については、空知・石狩圏域が全国平均を大きく上回る以外はいずれも全国平均に達しておらず、圏域間の格差も大きい状況です。



※配水池の耐震化率 (%) = 耐震化有効容量/全有効容量 × 100

3) 事業規模別（給水人口別）の配水池の耐震化率

事業規模別の配水池の耐震化の状況については、以下のとおりです。5万人以下の中・小規模の事業者で、全国平均を大きく下回っています。



※配水池の耐震化率 (%) = 耐震化有効容量/全有効容量 × 100